

学術雑誌『イノベーション・マネジメント』投稿要領

【投稿規定】

1. 原稿は Word で作成しメール添付にて提出してください。その際、所定の「投稿申込書」も添付してください（送付先：cbir@adm.hosei.ac.jp）。
2. 原稿は未発表のものに限ります。また、他誌へ投稿中あるいは投稿する予定のある論文等については、本誌への多重投稿を認めておりません。ただし、ワーキングペーパーは除きます。
3. 原稿は文法的に正しい日本語あるいは英語で書かれているものとします。この条件を満たさない場合は審査の対象外とします。
4. 原稿は、本文、注釈、参考文献、図表等をすべて含み、A4判 Word 40字×40行15枚（日本語24,000字、英語8,000ワード相当）を上限とします（要約とキーワードは除く）。
5. 研究歴など簡単な履歴を添付してください。共著の場合は執筆者全員分を添付してください。
6. 日本語の原稿にも英文タイトルをつけてください。
7. 原稿の採否は、本誌編集委員会が指定する審査員の査読を経て、本誌編集委員会が決定します。
8. 掲載された論文・研究ノートの特許権は著者に帰属します。ただし、出版者からの掲載前指定期日までに、別途定める「著作物利用許諾契約書」の締結が必要です。同契約により、発行後、出版者が全文を電子化し、J-STAGE等インターネットで公開します。前述の期日までに同契約を締結しない場合、掲載取り下げとみなします。

【執筆要領】

1. 一般的な原則
 - (1) 横書きとする。原稿は40字×40行のレイアウトとする。本文には日本語は10.5ポイント、英語は11ポイント、脚注は文末（参考文献の前）に記載し、9ポイントを用いる。フォントは、日本語はMS明朝、英数字はTimes New Romanを用いる。
 - (2) タイトル、氏名の次に、要約（日本語600字以内、英語200ワード）と5つのキーワード（日本語と英語）をつける。英語での投稿の場合も日本語の要約とキーワードが必要。
 - (3) 原稿の最後に、文字数あるいはワード数、執筆者名（日本語の場合はふりがなも必要）、肩書き（所属、職名）を記入する。肩書きは大学の場合には、学部、研究所等の名称まで表記する。共著の場合、著者名の表記順を明示する。
 - (4) 審査プロセスの匿名性確保のため、執筆者が特定できる可能性のある情報（謝辞や研究資金助成）は、投稿時点では記載してはならない。これらは、採択後に提出する完成稿に記載すること。また、投稿時点では本文中の参考文献の引用などにも留意し、「拙稿」などの表記や、未公刊自著の引用、その他執筆者が推定されるような論文の引用を行ってはならない。
 - (5) 図表等は出所を明記した上で、Word ファイルにレイアウトして本文中に挿入する。イメージデータを図表にレイアウトした場合は、図表の元データ（Excel、Word等）を併せて提出する。なお、筆者作成の図及び表は、「出所）〇〇(2022)図1を参考に筆者作成。」「出所）〇〇(2022)表2のデータをもとに筆者作成。」などとする。
 - (6) 図表は、図と表を分けて表記し、それぞれ通し番号を付ける（表1、表2・・・、図1、図2・・・）。
 - (7) 表のタイトルは表の上に記載し、図のタイトルは図の下に記載する。
 - (8) 文中で著者名を()を用いず引用する場合は「著者名(刊行年)」と表記し、著者が2名の場合は、和文は「・」（ナカグロ）、英文は「and」でつなぐ。文中で著者名を

()を用いて引用する場合は「(著者名, 刊行年)」と表記し、著者が2名の場合は、和文は「・」(ナカグロ)、英文は「&」でつなぐ。なお、著者が3名以上の場合は、和文は「第一著者名+他」、英文は「第一著者名+et al.」で省略する。ただし、第一著者・刊行年が同じで複数の著者の内訳が異なる場合、区別ができる箇所まで著者名を列挙したのちに省略する。

- <例>共感について検討した竹内(2015)では、食品分野の2つの競合ブランドを対象とし、FBページ閲覧による共感の発生について実証分析を行うとともに、企業イメージの向上を比較した。
- <例>具体的な実証研究の事例としては、前述のLin and Lu (2011)とKuo and Feng (2013)が挙げられる。
- <例>行為や活動の方向性を継続することへの意思であり、リレーションシップを維持したいという願望でもある(Hocutt, 1998)。
- <例>ブランド・コミュニティとは「ブランドのユーザー間で構造化された社会的関係に基づく、地理的に特化していない特殊なコミュニティ」と定義されている(Muniz & O'Guinn, 2001)。
- <例>Algesheimer et al. (2005)は、コミュニティメンバーは他のメンバーと交流し、協力するといった本質的な動機づけを持っていると指摘している。

2. 参考文献の方式

(1) 日本語の図書・論文の場合

- A) 日本語で書かれた図書については、①著者名、②発行年(西暦を()で囲む。同一年の場合には、1999a, 1999b等とする)、③書名(書名は『 』で囲む)、④出版者名の順に書く。
- B) 著者が2人以上の場合にも、全員の姓名を書く。複数の著者名を表記する場合には、著者名と著者名の間に「・」をつける。
- C) 論文については、①執筆者名、②発行年(西暦を()で囲む。同一年の場合には、1999a, 1999b等とする)、③論文名(「 」で囲む)、④掲載雑誌名(『 』で囲む)、⑤巻号、⑥ページ(pp.15-36等と記す)の順に書く。同一著者による論文が雑誌の複数号に連載されている場合であっても、掲載論文ごとに別々に表記する。
- D) 参考文献の最後は、かならず「。」で止める。

(2) 欧文の図書・論文の場合

- A) 書式は、*Academy of Management Journal* の Style Guide for Authors (最新版) の References に準拠する。特に、著者のファーストネームとミドルネーム(注の部分)は、イニシャルのみの表記とする。

<図書の場合>

①著者名 (Family name, (注) First name. (注) Middle name., & Family name, (注) First name. (注) Middle name.) ②発行年. ③図書タイトル: サブタイトル(タイトルおよびサブタイトルの最初のみ大文字、イタリック、太字). ④出版地: ⑤出版者.

<論文の場合>

①著者名 (Family name, (注) First name. (注) Middle name., & Family name, (注) First name. (注) Middle name.) ②発行年. ③論文タイトル: サブタイトル(タイトルおよびサブタイトルの最初のみ大文字). ④雑誌名(イタリック、太字), ⑤巻(号): ⑥ページ(例 1-9).

- B) 翻訳書については、該当する原文の図書・論文表記の末尾に()で囲み表記する。
- C) 参考文献の最後は、かならず「。」で止める。